

第5回留学レポート

法文学部社会文化学科4年 新田欧介

○最近の暮らしと所感

長いようで短かった留学生活も残り1か月となり、相変わらず時が流れるのは早いと感じる毎日です。ドイツに来た当初は早く帰りたいという気持ちでいっぱいだったのですが、今となっては300日近く住んでいるトリーアに愛着がわいており、この土地をあと少しで去ることを純粋に寂しく思っています。ここでできた国を超えたつながりは人見知りの自分にとって大変貴重なもので、この先も何らかの形でつながっていたいと願うばかりです。とはいえ、日本に帰る前と帰ってからやりたいこと、やるべきことが沢山あるので、胸を張って帰れるようにこれからも最大限の努力をしていきます。

最近は授業とタンデムに加えて、大学で哲学を教えている先生（日本人で、奥さんは私のドイツ語の先生）のお誘いで5月から大学のソフトボールクラブに入りました。野球を見るのは好きなので最低限のルールはもちろん知っていたのですが、いざ自分がやるとなると難しいもので、守備練習を一通りこなすだけで頭も体も疲れ切ってしまいます。それに加えて、その先生の小さな子どもたちが休憩時間になると頻りに「遊びたい!」と言ってくるのでキャッチボールや鬼ごっこをして遊ばれています。自分の運動不足が解消されていいと思う一方で、ずっと遊んでいても疲れのないあの子どもたちの無尽蔵のスタミナは一体どこから来るのだろうか毎回不思議に思っています。これまでトリーアを含め3つの町で試合をしてきて、勝ったり負けたりを繰り返していますが、遠征先から帰り道の途中で店に立ち寄ってハンバーガーを食べているときやバスの中でチームメイトと話しているときに何とも言えない懐かしさを感じます。ドイツで高校時代の部活のような「青春」をやり直しているのは不思議に思えますが、それもあと少しで終わってしまうので楽しい今をしっかり記憶として残したいです。



スペイン旅行初日に食べたバエリア



初めてのブンデスリーガ（ボルシアパルク）、ドイツ語版のチェンソーマン

○ブンデスリーガ観戦とスペイン旅行

ドイツでは5月末から6月初めにかけて聖霊降臨祭（Pfingsten）という一瞬間ほどの休暇があるので、その休みを使ってサッカー観戦とスペイン旅行に行きました。自分が行った試合はボルシア・メンヘングラートバハ対FCアウクスブルク戦で、ブンデスリーガ最終節ということもあって5万人以上のファンがスタジアムを訪れていました。この試合では日本代表DFの板倉滉のアグレッシブなプレーを見れた上に、チームも勝ったので自分としては大満足でした。帰りの電車は同日に他の都市で行われたチームのファンでいっぱいでしたが、なんとか日付が変わるころにはトリーアへ帰ることができました。

サッカー観戦の翌日からは友人2人と6日間のスペイン旅行に行きました。自分にとって初めてのラテン・ヨーロッパ世界の印象は、どこを見てもとにかく建物が赤いというものでした。また、観光地以外英語が通じないのもこれまで訪れた国々とは違う点でした。ドイツでは普通のカフェやレストランでも大概の場合、英語のメニュー表や注釈が添えられているのですが、スペインにはそれがなく、Google翻訳を使いながら自分たちが何を欲しいのか言わなければならず、大変でした。とはいえ、帰りの飛行機の乗り換えでミスをして、ミラノの空港で6時間足止めされた以外に大きな問題がなかったのも事実ではあります。思い付きで行き先を決めたところもありますが、マドリードではリアルマドリードの本拠地ベルナベウ・スタジアムやプラド美術館、バルセロナではFCバルセロナの本拠地カンプノウやサグラダファミリアといった観光地を時間いっぱいめぐりました。普段住んでいる中欧の国と異なる雰囲気をもつ世界はどこへ行っても新しい発見ばかりで、およそ1週間過ごしていても飽きることはありませんでした。また、地中海および大西洋に面しているこ

とから料理のバリエーションが豊富で非常に美味しく、心も体も満たされた素敵な旅になりました。

前述の通り帰国まで 1 か月程度しかなく、試験期間も迫っていることから長期の旅行はもう帰国直前にしかできないと思いますが、できるだけ後悔のないように自分の見たいものを見て、広い意味でしっかり勉強をして帰りたいです。



サンディエゴ・ベルナベウスタジアム（マドリード）



左) サグラダファミリア、右) バルセロナのコロンブス像